

## 第 2 回飯能市地域公共交通対策協議会分科会 議事録の概要（経過）

（1）本協議会分科会の第 2 回目の開催にあたり、事務局から開会が宣せられたのち、以下のとおり手続き等をした。

- ①部長挨拶：坂本市民生活部長から開会に際し、挨拶をした。
- ②座長挨拶：続いて、座長（福島大学吉田准教授）から開会に際し、挨拶をした。
- ③自己紹介：今回の計画策定業務委託事業者である日本工営株式会社から各自自己紹介いただいた。

（2）アンケート調査等の実施について

事務局からアンケート調査に関する進め方について、以下の資料に基づき説明した。

①アンケート調査等の実施について（資料 1）

- ・ 網形成計画の位置付けと調査の方向性（資料 1-1）
- ・ 今年度調査項目（案）（資料 1-2）
- ・ 住民アンケート調査票（案）（資料 1-3）
- ・ これまでの施策レビュー方針（案）（資料 1-4）

内容的には基本的に了承されたが、各委員から以下のとおりご質問・ご意見等があった。

・ 飯能市地域公共交通基本計画の計画期間であるため、基本方針は踏襲しつつ、網形成計画策定の中で論点を議論していくことになる。今回資料で示された基本方針の 3 点について、どのように飯能市につなげるかのアウトカムにつなげていくかが重要である。今後、目指すべき飯能市の姿を実現するために我々が考えていく必要がある。印象として合致しているという認識でよいか。それでよければそれに基づいて調査をしていくことになる。

→異論なし。

・ 資料 1-2 の取り組みの取組への協力可能性調査のヒアリングについて、いろいろな自治体が行っているが踏み出せないことが多い。どのようなものを想定しているか。

→ヒアリングについては、拠点施設の利用者などを考えている。

→モビリティマネジメント等のパートナーシップや、狙い撃ちの対象者がいればそれらを対象とすることが考えられる。あまり広く薄くとすると熟度が下がる。例えばバスまち環境等、狙い撃ちしていく必要がある。

・ 地区別の取組について、すでに現在検討が進んでいるのか。それとも地区の困窮度合いについて変わるのか。これから立ち上げていくのか。今、事業としてすでに動いているものがあるかどうか心配である。

→地区別の端末交通について、吾野のほうで福祉輸送サービスの取組がある。6 年経過し課題も挙げられており、福祉部局も含めて取り組んでいる状況である。それも参考に、地区の小さな移動を行いたいとの話も他の地区からある。その他の地区でも何かできないかとの機運は高まっている。

・地区では温度差があるのではないか。吾野のように取組が進んでいるところもあり、これからのところもある。地区ごとの差が大きい。検討が着手されているところはそれを素地とするのがよいが、全くそのような機運がないところはどうするか。

→出前講座や地域の自治会で住民を集めて説明をしてほしいという地区もある。課題がある地域については、市としてもそのような地区を特定し、出向いて自治会の協力をいただきたいと考えている。

→財政も含め、地域の人が1から10までできないケースが圧倒的である。ある程度行政側でリスクをもって、どのような方法であれば網形成としてできるかの「皮算用」が重要である。浜松等、合併市町村で中山間地域が増えたところではそのような問題がある。地域で立ち上げた取組について、例えば週2回の運行は市で担保してあげる、市でコミュニティバスを走らせるよりも効率的である等を検討していくことが必要となる。今それぞれの地域が抱えている課題やどのような人がいるかを調査し、課題解決として市としてできること、リスクを分担できるところを明示していく必要がある。

・端末交通のあり方について、今ある端末交通はどのようなものか。また、地区が選択するときに誰が選択するのか。

→市域が広く、問題課題が多様である。市のほうで統一した考え方が打ち出しにくい状況ではある。地域で移動を守っていく、あるいは今ある移動手段を活用していく等の選択を地域のほうで選択していくことを考えている。交通空白地域の他、市街地についてもバスを生活に活用できない、といったところもある。タクシー会社の活用も含めて、一緒に考えていくようなシステムを作っていくと考えている。

・「たすけあいあがの」は特殊と考えている。行政との関係もうまくやりながら作ってきたという点が特殊であり、どの地域でもできるわけではない。登録制であるため、道路運送法上の位置づけも考えていく必要がある。共助で支えているという「きれい」に見えるが、いろいろな問題を抱えている。地元には負担がかかり、継続が難しい（仲間内は楽しいが外れた人は乗れない等）。横瀬のブコーさん号も特定の人が利用しており、座席を占拠している事例もある。本来需要が増えてくるところではあるが、そのようなことがあると新規の乗客が乗りづらい環境にもなり、政策的にマネジメントしていくことが難しくなる恐れがある。「たすけあいあがの」が唯一の選択肢と考えることは危険である。運営と運行を分けて考えていく必要がある。行政が丸抱えとするか、地域が背負うところを分ける必要がある。運行については、全て地元の白ナンバーで運行するか、既存のバス路線を変更するかなども視野において検討する必要がある。自分たちがやると事業者よりも安くなるという考え方は危険である。会津若松では、自分のパートナーとなるような事業者選定（お見合い）までやっている。こちら側からはどのようなやり方があるかを網形成で示して、地域に選んでもらうということが重要である。

・アンケート票について、14地区100世帯とあるが、これはいけるか。市の封筒で配布するかも重要である。戻してくれない人もいる。60人くらいが現実的な回収率である。その

ような場合でも分析に耐えられるか。

→100 くらいほしいと考えている。配布数を増やす、広報誌にも入れる等、機会を増やし回収数を増やしたい。

・例えば各世帯に3通ずつ配るのはどうか。各世帯2人回答してもらえれば、90人回答してもらえる可能性がある。いろいろな機会でも配布することもよいが、回答の粗さが変わる可能性も懸念される。最低各地区100は目指したい。

→ご意見を踏まえ、再検討したい。

・アンケートの依頼文は重要である。市長の名前を入れたり、現状を説明する資料をつけたりすることが有効である。

→重要な指摘である。回答の丁寧さ、回答の前提条件は、回答率にも影響する。

・支払意志額を聞く欄があるが、この意図は。

→前回の分科会でもあったが、片道の運賃がどの程度までならば許されるかについてご意見をいただきたいと考えている。

・複合的な問題である。金額を聞くパターンは、①公共交通政策の税金の投下の許容（自分が支払っているわけではない）、②この地域での公共交通の値段が適切なかの確認（秩父市での中心部まで出る場合の運賃の確認、シナリオをつくって許容される規模感の割り出し、免許返納後の対応）、③実際に本当にいくらか自身が金額をかけているかの確認、がある。どのようにこの結果を使うつもりなのか。運賃に対しての負担感を聞くのであれば、ダイレクトに聞いてはどうか。

・いくらまでの部分については、利用目的によって最終目的地までなのか、市内までなのかを分ける必要がある。市内の移動に限定してはどうか。

・活動の目的地にもよる。秩父の場合は広域的である。秩父市役所までとしている。秩父では、「これ以上はだめ」「これくらいなら大丈夫」「これでは安すぎる」といった選択肢で確認している。飯能の場合は飯能駅を起点とするとのよいのでは。駅から所沢や都心までの運賃は別の議論である。本項目は修正してまた見せてほしい。

・Q4のバス停までの距離については距離を聞くことでよいか。

→時間で聞くほうが分かりやすいとの意見もあった。

・距離でもよいが、1,000mを超える場合はその選択肢を設けては。その他の書きぶりを変えてほしい。

・鉄道の距離の選択肢は長くてもよいのでは。鉄道を逃すとバス停までのどのくらいあるか、という聞き方がよいのでは。特に鉄道は距離が長い人が多いのでは。名栗は長いことが考えられる。

・時間も併記してもらってはどうか。利用者は時間で考えている。

→分析では、時間でも距離でも検討できるように設問文を再検討する。

・アンケートは10月頃配布か。修正版を初めて見た方もいるため、事務局修正後、再度委員に確認してもらい、最終版としたい。

→修正後、確認を依頼する。

- ・施策レビュー方針については、最後のページの様式にまとめる理解でよいか。

→そのとおりである。

### (3) スクールバスの活用について

- ・スクールバスは貸し切りと路線バスへの補助の形態で行っているが、路線バスは一般乗合でよいか。

→そのとおりである。時刻表には載っていない。実質的にクローズドアの運用を行っている。南高麗は福祉限定の路線もあり、その整理も必要

- ・貸切箇所については、料金収受ができない。混乗の運賃設定はできないため、無料での乗車となる。有償となる路線化のエリアとのギャップが発生する。

→今あるスクールバスについては、バリアフリーの対応をしていく必要もある。運行日や本数にもよるが、路線化した場合は市の財政支出が増えるとあるが。

→貸切のほうが安い状況である。

- ・参考までに東北は賃率が違うこともあり、路線化の方向である。PTAや教育委員会との調整が難しいことが多いが、実証実験を行い問題がなければ次のステップを考えていくほうがソフトランディングできる可能性がある。吾野の無償の枠組みを進め、次をどうするかを考えていきたい。

### (4) バス利用等に関する意見交換

- ・啓発ポスターは誰が作るのか。

→飯能市で作成する。

- ・ノーマイカーデーについては、八戸で取り組みがある。居酒屋にポスターを貼りつけている。帰りのバスの問合せもお店に聞けばわかるようにしている。バスの窓口も夜閉まるため、そのような取り組みも有効である。また、飲食店との連携は重要である。

- ・案内表示について、バスルートマップの路線図を活用できないか。

→観光面も含め、一緒に表示できるようにしたい。何かを加えていくことは可能。今後、路線マップを検討していきたい。

→全体図はきれいにできている。地図上にないのは乗り場の番号である。

→狭山市行きのバスは路線図に載っていない問題もある。

→〇〇方面のように集約しては、情報過多にはしないほうがよい。

- ・誤字を修正いただきたい。

→修正する。

- ・ノーマイカーデー実施に関して特典はあるか。福島市のノーマイカーデーは福島大学しか協力していない。教職員組合の掲示板しか出ていない。呼びかけではうまくいかない。試行でもよいので市内だけでも面白い取組をやってはどうか。八戸市も課ごとに参加者を

カウントし、市長が表彰した。

→働きかけ、チラシ配布を進めるとともに、特典に関しても検討したい。

(5) その他

・アンケートは部数、内容を検討いただきたい。実際の網形成計画の方針として、ラストワンマイルをどうするか、メニューを提示していく必要がある。バス利用についての意見交換については、既存の取組を生かしていただきたい。

・次回の協議会の開催予定については、平成 29 年 9 月下旬を予定している。日程が決まり次第ご連絡させていただく。